

第32回（原町高等学校野球部監督 遠藤優太）

「ザ・コーチ ～最高の自分に気づく本～」

著者 谷口貴彦 小学館

福島県高等学校野球連盟の皆様には、令和4年度に開催された甲子園塾に参加させて頂けたことに感謝申し上げます。甲子園塾を受講し、高校野球の意義、指導者としての心構えについて多くのことを学ぶことが出来ました。甲子園塾の受講は、私自身のこれまでの指導を振り返るとともに、受講者の先生方との意見交換を通して、様々な高校野球の関わり方について学ぶことが出来ました。指導者として何よりも生徒のため、チームのために愛情を持って共に成長していくことが大切であり、そのためには、教員として学び続けること、生徒を信じ、待つことが重要であると感じました。また、実技指導では生徒たちの力を引き出す言葉かけやコミュニケーションの図り方、考えさせる野球を通して一人ひとりの変化していく姿を見ることが出来ました。グラウンドでの生徒たちの生き生きとした姿がとても印象的であり、高校野球の素晴らしさを感じる事が出来ました。甲子園塾の3日間は、これからの指導につながる貴重な経験となりました。この経験を高校野球の指導へ活かし、福島県の高球野球に少しでも貢献できるように努めてまいります。

今回、私が紹介する本は、2020年に新型コロナウイルス感染症が拡大し、今まで当たり前できていた高球野球ができない時期に、大学時代の友人から薦められた一冊です。

皆さんにとって教員、指導者としての目的は何ですか。私は2020年のコロナ禍で教員として何が出来るか苦悩の日々を過ごしていました。赴任したばかりの原町高校で私自身、野球部の生徒に何が出来るか悩むことが多くありました。当時の3年生は、高球がやりたくても出来ない日々が続き、練習が出来たとしても制限がある中での活動でした。監督として、3年生を励ますことしかできず、何もしてあげられなかったことが申し訳ないと今にも思います。しかし、3年生たちが限られた環境の中、高球を一生懸命に取り組む姿やプレーできる喜びをグラウンドで見せてくれたことがとても嬉しく、一緒に高球ができたことに感謝しています。とにかく高球が好きで今できることを自分たちで考え、明確な目標を持ちながら取り組む姿は今でも忘れません。

当時、この本を読み、3年生と照らし合わせながら、目的、目標を持つことの大切さを再認識しました。また、夢やゴールを目指して行動する中で、常に選択と判断が磨かれていくことも学ぶことが出来ました。自分たちでゴールを決めさせ、軌道修正させることや目標設定を重要視させるなど、この本と当時の3年生と出会えたことが今の指導に活かされていると感じております。

「ザ・コーチ～最高の自分に気づく本～」は、目的とは何か、目標とは何かを考えさせてくれる一冊です。教員としての生きがい、やりがいにつながる目的やゴールを考え、生徒と明確なビジョンを共有し、共に歩むことの大切さに気付けると思います。もし、ご機会がありましたらこの本を読んでいただけると幸いです。